

No. 2236



教育ルネサンス

変わる学習塾 2

学が育む

進むIT化学習履歴蓄積

ったが、徐々に他学部、他

生たち(3月17日) 東京都新宿区で「正藤塾」

3月中旬の夜、東京都新宿区にあるビルの一室。中学生8人がタブレット端末の画面上で数学の方程式や理科の電流などの問題を解いていた。自習方式で、生徒から質問を受ける講師は1人だ。

学習塾を運営する「メイツ」(東京)は独自のオンライン学習システムを導入し、都内とさいたま市の計12教室に約700人の生徒が通う。

1回90分の授業中、生徒は個別に端末の画面上でテキストを読みながら、授業映像を見たりしながら、表示される各教科の練習問題を解いている。解答は自動採点され、点数、学習時間、進捗状況などが、端末と接続した塾のサ

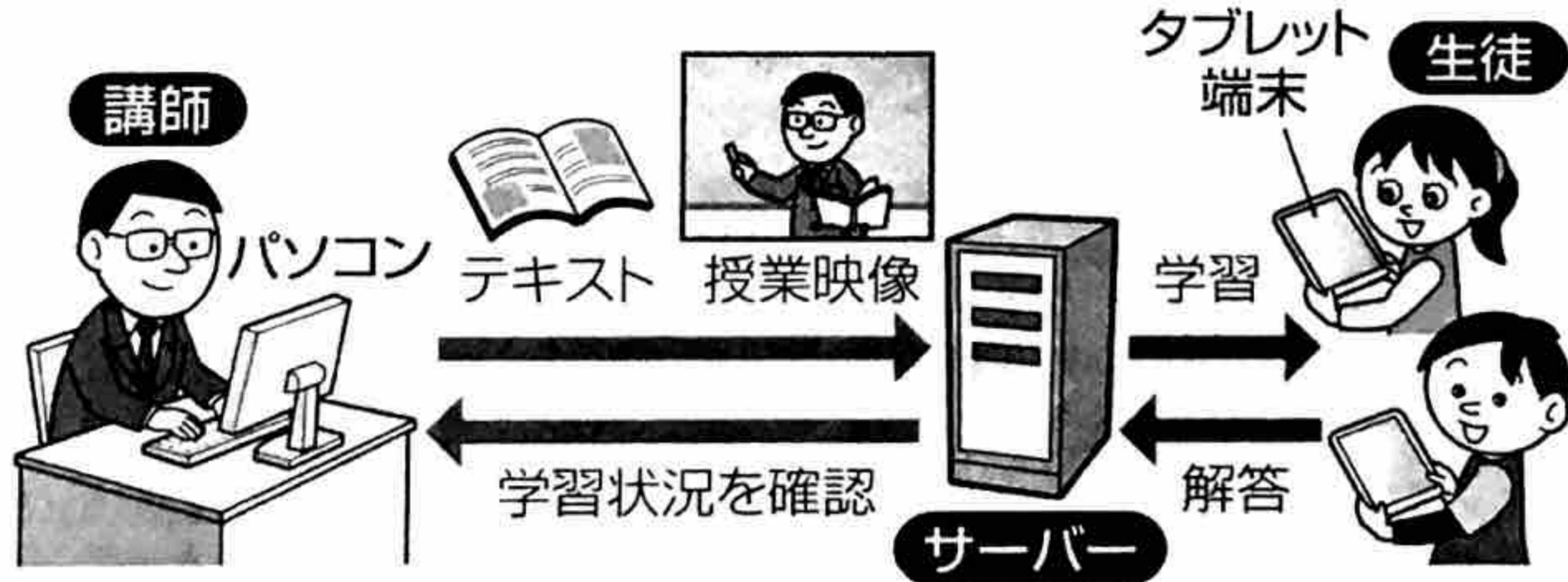


タブレット端末を手に指導にあたる講師(中央)(3月、東京都新宿区の進学塾・メイツで)

ーバーに「学習履歴」として蓄積される。講師は学習履歴を見ることができ、担当の生徒が変わっても引き継ぎ書類は不要だという。

「機械にできる仕事は任せ、

オンライン学習システムのイメージ



(NTT東日本の資料などをもとに作成)

勉強の仕方を教えたり励ましたり、人にしかできないことに注力したい」と遠藤尚範社

長(27)は説明する。新宿の教室に通う男子生徒(13)は「自分のペースで勉強できる。わからない時は先生から納得できるまで教えてもらえる」と話した。

塾業界にはIT化の波が急速に押し寄せている。

「NTT東日本」(東京)も、タブレット端末を使って個々の生徒が学習し、その履歴や成績を管理できるシステムを開発。2015年秋から販売したところ、全国約100の塾が採用したという。

背景には、塾講師の人手不足を指摘する声もある。

経済産業省の15年の調査では、塾従業員の7割(約21万人)はアルバイト・パートに依存するが、同年には一部の塾でアルバイト学生への残業代未払い問題が表面化した。

厚生労働省が塾関連団体に講師への適正な賃金の支払いを要請する事態になり、業界紙

私教育新聞(東京)の千葉誠一編集主幹は「学生が塾講師を敬遠する傾向もどうか見える」と語る。

講師の役割の一部を人工知能(AI)に代用させる動きも出ている。

学習塾を展開する「学研グループ」(東京)は4月、全国70教室で小中学生を対象にAIを利用した個別指導を始めた。国語以外の教科ではテスト結果をもとに、AIが生徒の苦手な分野やつまづきの原因を分析し、学習すべき内容を提示する。一方で、生徒の学習上の相談は「メンター」と呼ばれる職員が対応する。

塾のIT化に詳しいNTTサービスエボリューション研究所(神奈川県)の加藤泰久主幹研究員は「情報端末の普及で個に応じた効率的な指導が広がっている。ただ、学習が受け身になりがちなのは課題だ」と話す。